

英語教育専修

中等教育履修分野

国際コミュニケーション言語の英語、および英語圏の文化に焦点を当て、国際的視野を備えた教員を育てます。

学びのポイント

1 実践的コミュニケーション能力の養成とその効果的な教え方について学ぶ

各授業を通して、英語の「読む、書く、聞く、話す」の四技能を伸ばし、実践的コミュニケーション能力を育てます。また実践的コミュニケーション能力を伸ばすための教え方を学びます。学校教育現場に必要な英語コミュニケーション能力を養成します。



2 言語の本質や異文化理解について学ぶ

すぐれた英語教員になるためには、十分な英語運用能力だけでなく、言語の本質や言語文化についての一定の見識を身につけることが必要です。そこで、人間の言語にはどのような特徴があるのか考え、また言語と密接な関係にある文化や文学面から人間理解を試みます。さらに、異文化理解とは何かについて、さまざまな視点から学びます。

3 思考力を基礎にした発信力を学ぶ

グローバル化した社会における教育実践力を高めるため、英語による卒業論文作成などを通して、考える力、まとめる力、発信する力を習得します。論理的で簡潔な英語の発信を通して、教室に必要な英語運用能力を獲得します。

学びの領域

ことばと教育、文学、国際理解教育のあり方を学ぶ 4つの領域

これら4つの領域から「ことば」を捉え、探求する姿勢を養います。



英語教育専修の授業スケジュール

【3回生前期の一例】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1・2時限			中等教科教育法Ⅲ(英語)	教育実習事前指導	
3・4時限			実践英語研究Ⅰ	教育実習事前指導	言語文化研究Ⅰ
5・6時限				教育方法・メディア(equal)	生徒指導・道徳科(北)・教育相談Ⅱ(中等)
7・8時限		実践英語表現研究			
9・10時限	英作文Ⅰ	英文法演習			



英作文Ⅰ

グローバルな立場に基づき世界を把握するために、さまざまな視点からの英作文を行います。



英文法演習

人間の言語知識について考えます。高校で学ぶ英文法とは異なる世界を楽しめます。



実践英語研究Ⅰ

インタラクティブな活動を通し、日常及びアカデミックな状況に対応する高度な英語運用能力を身につけます。



言語文化研究Ⅰ

言語と文化の関わりをいろいろな視点から探求し、広い視野と柔軟な発想を身につけます。

Student's Voice 在学生の声

「少人数・質の高い授業を通して世界への『窓』になる Let's study together! Come on!

英語教育専修4年生 加藤 彩乃さん (広島県立 広島高等学校出身)



英語教師は、日本にいながら外国の文化を伝える者、すなわち生徒にとってはいわば世界への「窓」です。生徒にとって良い英語話者の例になり、異文化理解の姿勢を示すことが求められています。英語教育専修では、そのような教師になるために、英語教育や英語学、英米文学という観点から英語について探求すると共に、英語圏以外の文化への理解を深める学習も行っています。小規模の専修であるため授業は少人数で行われることが多く、質の高い授業が行われています。また、縦の繋がりも強く、授業や大学生活での悩みや不安を上回生が親身に聞いてくれます。未来を担う子どもたちにとって素敵な「窓」になるために、英語教育専修で私たちと一緒に頑張らしましょう!

主な開講科目

英語学概論 / 英米言語文化論 / 英米文学作品研究
国際英語文化教育論 / 音声学・音韻論 / 英会話Ⅰ・Ⅱ
実践英語研究Ⅰ・Ⅱ / 国際理解教育演習Ⅰ・Ⅱ / 英米文学特講
異文化理解研究 / 言語コミュニケーション論 / 言語文化研究Ⅰ・Ⅱ

取得できる免許状

・中学校教諭一種(英語)等(P.8,9)取得できる免許状・資格(のページ参照)

卒業後の主な進路

年度により若干のばらつきはありますが、教員(小学校、中学校、高等学校)が主な進路です。教員の他には、会社員や公務員として就職したり、大学院に進学する学生もいます。例年卒業生のほぼ全員が教職、公務員、大学院等希望通りの進路に進んでいます。

教員および専門分野(平成29年5月1日現在)

- ・佐藤 臨太郎教授 / 英語科教育 教室第二言語習得研究、英語教育学
- ・ピーター・ファーゴソン専任講師 / 小学校英語、語用論
- ・トーマス・アムンルド准教授 / 実践英語教育 言語学・談話分析
- ・門田 守教授 / 英米文学 19世紀イギリス・ロマン派の詩および小説、文化の研究
- ・吉村 宏宏教授 / 英語学 認知言語学、日英語対照研究、言語文化論、中間構文の研究
- ・米倉 陽子准教授 / 英語学 認知言語学、言語変化に見られる規則性、意味の拡張の研究